平成18年度VUV・SX高輝度光源利用者懇談会 第二回幹事会議事録

１．日時：平成１９年２月２３日（金）　１３：３０～１６：２０
２．会場：東京大学物性研究所　６階第２会議室
３．出席者：辛（会長　東大物性研）雨宮健（KEK）伊藤（KEK）太田（立命館大）
尾嶋（東大）小野（KEK）鎌田（佐賀大）木下（SPring-8）木村（分子研）
菅（大阪大）宮原（首都大東京）柳下（KEK）
オブザーバー：柿崎（東大物性研）中村（東大物性研）
委任状：１通
４．配布資料：
・ 平成１８年度総会議事録
・ VUV・SX高輝度光源利用者懇談会会則
・ SPring-8専用ビームライン設置計画趣意書
５．報告・議事
１）平成18年度総会議事録が承認された。
２）辛会長から会則の改正案が提案され、第１章第２条が以下のように変更されることが承認された。

第 ２ 条　（目的） 本会は、東京大学が建設するＶＵＶ・ＳＸ高輝度放射光利用施設の建設協力ならびにその研究計画に関わる情報交換の円滑化を図るとともに、会員相互の交流の促進を図り、放射光科学の発展に寄与することを目的とする。

３）尾嶋放射光連携研究機構長、柿崎放射光連携研究機構・物質科学部門長により、アウトステーション計画について、詳しい現状報告が成された。
４）アウトステーション計画、及び今後の活動方針について以下のような議論があった。
- アウトステーション計画の利用研究や共同研究に対して、大学の部局ではない放射光連携研究機構が責任を持って行えるのか。
- 概算要求の行方については注意深く見守っていく。
- 東大がビームライン建設に資金等の協力をしてくれる機会は、最大限利用すべきである。
- ビームラインのブランチ化は、資金面の困難さは有るが、マシンタイムの有効利用のために是非実行すべきである。
- アンジュレータの仕様について種々の議論があったが、「ビームライン設置計画趣意書」に公式に記述された偏光特性からの変更がある場合には、専門家と利用グループからなるサブグループが早期に関係者の意見を聴取しながら、滞りなく仕様を確定して建設を始めるべきである。

- 利用研究に関わるエンドステーションの各サブグループを作り、ユーザーの意見を反映することとする。以下のサブグループのキックオフを次の会員に依頼し、建設協力チームを形成していくこととなった。
  - ✧ 光電子分光；組頭広志
  - ✧ 軟Ｘ線発光；原田慈久
  - ✧ 光電子顕微分光；木下豊彦
  - ✧ 軟X線イメージング；小野寛太
  - ✧ 時間分解分光；松田　巌
- 共同利用体制については今後も議論を続けるべきである。旅費のサポートを行い、ＪＡＳＲＩとの差別化を図るべきである。
- 懇談会としては、アウトステーション計画以外に、軟Ｘ線FELなど高輝度光の利用研究や専用光源建設の支援も視野に入れるべきである。
- 名簿の改訂については、総会の決定通り遂行する。
- ビームラインの利用計画については、ユーザー側の希望をとり入れる研究会等を、至急開催する。（現在、平成１９年７月に物性研究所短期研究会の開催を企画中である。）
- 次回の幹事会は、利用研究を検討する研究会の終了後に行うこととする。

（議事録：事務局）